

G分科会「高齢社会」参加者のコメント

□ 防災

- ・災害時は不安要素が多い
- ・路地は風情はあるが防災面の対応が気になる。
- ・古い建物が多いので耐震はどうなのかな？
- ・路地長屋・・・防火対策は万全か
- ・路地長屋・・・耐震性は大丈夫か
- ・火事が心配
- ・緊急車両はどうなるのか。高齢者が倒れた時とか、火事とか
- ・道幅の狭さから消防・救急活動が必要になった時に問題が無いのか懸念される
- ・道路が狭く、火事等を考えると少し怖い感がありました。
- ・防犯・防火・防災上かなり問題がある。ポケットスペースをもっと造って街の安全性を図ってほしい
- ・火事や地震の時は？大火になってしまいそう。逃げ場所、経路を確保できるのか
- ・路地に入ったら出て来られなくなりそうです(迷路)。表示がほしい
- ・断層の近くに住んでいることを住民は認識しているのか
- ・安全上好ましくないブロックや擁壁が見受けられた
- ・あじき路地などの長屋は外壁全般、火災に対しての自衛手段を十分に考えておく必要があると感じた(消防団が充実しているとしてもそれ以前の問題として)
- ・町屋の老朽化は否めず、危険と隣り合わせの状況をどう維持するのか。「壊す」ではない解は？

□ 高齢化対応や日常生活

- ・暮らす街と言う事ですが、お年寄りや日常の買物をどうしているのだろうと思いました。ハッピー六原から遠い方々は近くにあるのでしょうか。
- ・食料品・日用品店が少ない(需要がないということ?)。高齢者には近隣での買い物も必要
- ・高齢者には買物に行く商店が不足。
- ・高齢者にも車が必要な時もあると思います。押し車だけでは限界がある。
- ・老人が多いので車との交通事故が心配
- ・路地の家に住む時、車を持つのであれば、駐車場はどうするのか
- ・雪の日など足元に気をとられていると(狭い路地の場合)、電柱柱にぶつかったりしてしまう。
- ・路地の幅が狭い。車両の進入は無いけれど、自転車・バイクの移動のみ。
- ・路地が多くて道幅が無く、坂が多い
- ・自転車で走りにくそう
- ・狭い道で、自動車が通るときに危険。空を駐車場にするとどこまでも車が入る
- ・道が狭く、車の出入りが出来ないところでは、高齢者にとってはサービスが受けられない。
- ・道路段差があり、老人には歩きにくいかも
- ・古い石畳は情緒はあるが、高齢者には歩きにくいかなと思った。
- ・石畳の通路は風情があるが、高齢者が歩くには不自由である。
- ・車椅子では生活が出来ない。
- ・夏は涼しい建物の様子だが冬は非常に寒いのでは?特に老人には。
- ・あじき路地にて、家族や子供が増えたら出て行かなくてはいけないのは残念。みんなで子育て出来たらいいのに。
- ・今日、見せていただいた改修された町屋は家族で暮らすことが難しいように思える。子育てなども考えてもう少し快適な家になるように費用もかければ地域も発展するのでは。
- ・暖かく住むための古民家としての改修方法を見つけ出すこと

□ 景観

- ・長屋が多く、空き家が多い
- ・美しい街並を壊すような周りにそぐわない建物が自由に建てられている。
- ・自動販売機の色がまちまちで折角の景観を壊しているように感じた。
- ・小中一貫校の校舎。寺のような外観に学校としてはいかがか?屋根と格子が京都のデザインと言う事だがちっとも良くない。塀を低くしたことは素晴らしい。
- ・最近建設された住宅のデザインが問題。六原学区の良さをもっと知って建ててほしい。
- ・「歴史ある街づくり」に現在ある古民家をそのまま残すことには賛同できません。確かに哀愁が漂う懐かしさがある趣はさすが「京都」・・・とは思いますが、そのままリフォームするには経済的にもかなり負担が大きいのではと。また快適性・安全性から考えても技術や意匠を残しても作り替わる方が良いのではないかと思います。

□ 空き家対策・活用

- ・長屋の町家の新しい使い方が住宅でなくなってきていることが気になる。この後、どう変化していくのか
- ・もともと職人のまち?さびてしまっている。陶器職人さんたちの生残り策を考え直しては。陶器陶芸の別の利用。
- ・建仁寺近くの職人町の職人の仕事を絶やさないため、積極的に設計に仕様書として入れなくてはならないと思う。
- ・空家を家族の意思で活用することが出来ない。折角の立地条件で借りたい人がいるのにもったいない

提案事項・改善点について

□ 安全への配慮

- ・屋根・外壁に関しては公からの援助を付けて防火塗装にしていけることが望ましいと思った。
- ・路地に防火戸的なものは付けられないだろうか。火事が起きた時に止められる工夫が必要
- ・アート系の学生が住み始めた路地奥。避難通路を学校のグラウンドに直結できれば安心。
- ・京町家改築にあたっては、防音・断熱に加え消防対策として防火が必要
- ・地震に対しての建物強度の確保

□ 高齢者への配慮

- ・高齢者が多いよだから、弁当や買上げ商品の宅配サービスをしてあげる。
- ・坂を上ってスーパーは年齢と共にとてもきついので移動販売等をしてあげてはいかがでしょうか
- ・石畳をフラットに。押し車でも歩ける仕上げ。スロープ等
- ・もう少し平らにしてあげたい。道の凸凹が多いので杖を用いるくらい足の悪い方には歩行困難。
- ・休める場所を作ってほしい。街角ベンチ
- ・押し車で買物する高齢者が多いので、街中の道路端とかにベンチを置いて休める場所があったら良い
- ・路地のところどころにベンチがあると良い。人のちょっとしたたまり場にもなるし、高齢者にもやさしい。
- ・老人と子供・若者が自然に触れ合える仕組みや場所づくり
- ・公衆トイレがあると良いのですが
- ・路地や狭い道路が多く、閉塞感が強い。建物によっては解体し菜園等にしては？
- ・地域の子供さんがお年寄りに力を貸す方法を考えたり、どこにどんな人がいるよを知らせてあげたりしてはどうか
- ・道しるべ(案内板)がもっとあれば良い。

□ 街並・建物への提案

- ・基準法に縛られない京都町家特別条例を作る
- ・町並デザインコードをもっときっちり作る。新築の家の屋根のかけ方やこの地域らしい開口部の造り方 ←地域の人と専門家が協同で考える
- ・まちなみは〈みち〉なみ〈へい〉なみ〈庭〉なみ、〈家〉なみ〈空〉なみなどと言う。まちなみを〈家〉なみだけとせず、建築と建築の隙間の空間であるいわゆる〈地〉の空間のちょっとしたしつらえを考えることも大切ではないか。まち中ランドスケープデザインをもっと注目してはどうか
- ・改修方法のアドバイスを加えられると良い結果が生まれるように思います
- ・古民家の改修に化粧ベニヤは使ってほしくない
- ・建て替えとかが出来ない路地奥について一団地認定のような手法が取れないだろうか
- ・古い建物の改修にはお金がかかるので、技術の修業希望の人たちに声を掛けたり、廃材を持ちより低コストでの改修を計画して見てはどうか
- ・古くてももう少し清潔感を出すようにしてほしい。
- ・あじき路地のような新しい長屋の住まい方がもっと広がってほしい。そのための補助や助言が与えられる機会をもっと作ってほしい。

□ 街の「お宝」の活用

- ・登り窯を一般に開放(観光地ではなく住宅地だから不要?)
- ・折角、清水焼の発祥の地で窯もあるので、何とか改善して焼くことは出来ないのでしょうか
- ・登り窯の遺構の整備が気になります。放置しているように見えます。活用方法は無いのだろうか
- ・登り窯を改修し、見学する場や趣味で焼き物をする人々の憩いの場にしてスクールを開催
- ・登り窯内部を整理し焼く工程以外を体験できるなどに活用してみてもどうか
- ・登り窯を整備してカフェにしたら良いのでは。清水焼のカップで。
- ・小野さんのアトリエについて、部屋貸しに使う予定であると聞いたが新しい壁紙や木材を。
- ・京町家の吠陀(ヴェーダ)…ところどころに新建材が使われているのは残念。まちづくりファンド等で昔ながらの土と木と紙ですべてつくることで訪れる人も共感と感動を得る。

□ 空家の活用

- ・懐かしい空間を老人のたまり場(ディサービス)に使う。そこに若い人も訪れ異世代交流もする。若者の元気×老人の知恵
- ・空家になったところの一部を老人や町内の憩いの場にする(趣味の広場等)
- ・町家を再利用するのはとても良いが、元のテイストを活かした工事がされるともっと価値が上がる(費用の問題はあるでしょう)
- ・「小野さん」がたくさん出現するにはどうしたら良いか
- ・空家の長屋活用。とても楽しそうな発想。出来れば近隣の方の了解が頂けるのであれば、平日を含めての開店などをもっと増やしてみてもどうか。

□ 情報発信

- ・空き家情報をインターネットで全国に発信できる仕組みを、地域の高校生・大学生などの授業の一環として作るのはいかがでしょうか(学生たちの力を利用する)。
- ・陶芸などの伝統文化・町家の残る町並み。素晴らしいものがあるので、子供たちにその良さを伝えていくことに力を注いでいってほしいと思います。

□ 地域力

- ・自治会の菅谷さん！あんな方が街を見守って頂けて六原学区は嬉しい。町内会・自治会はあのような若者に仕切ってほしい。

□ 防災

- ・防災マップを作成して避難訓練をする(町内で)

感想等

□ あじき路地

- ・大家さんの芯の通った考えに感銘を受けた
- ・あじき路地のように古い家を活かし、コミュニティーも出来るような所がいくつもあると楽しいと思う。
- ・小野邸の古家の使い方は魅力的でした。
- ・何と言ってもあじき路地の味いは圧巻。古い建物でしかもあんな長屋スタイルを、可愛いお店とかスタジオ的に活用されている楽しい街づくりは地方都市仙台にも造ってみたい。
- ・長屋の暖かい感じを残し、内部も元の建物の良さを活かして再利用されているのが心に残った。
- ・あじき路地が印象に残った。大家さんが店子さんたちと良い関係を保つには、相当なパワーが必要だと思うので、どこでも通用するわけではないと思うが…。大家さんにそれだけの覚悟が無いと難しい。第三者が入るのはもっと大変だと思いました。
- ・あじき路地での創作活動をしながらの住まい方と大家さんの心意気に感動。
- ・あじき路地の大家さん！仕組みも熱意も素晴らしい。
- ・あじき路地のように玄関先の装いがあると良いと思った。

□ 町並みの感想

- ・古くから継承されてきたものを保存・再生し、美しい街並みを形成しつつあることは素晴らしいことだと思う。継続が大事なことは承知しているが実行への努力に敬意を表します。
- ・京都の文化である町家も歴史的建造物として残してほしい。
- ・景観とは結局のところ、高田先生もおっしゃる通り、生活文化の表出。そう考えれば京都と言う伝統文化と言う歴史的な基盤の上に〈まちづくり〉を考えることはよりどころの見えない都市での〈まちづくり〉に比べれば羨ましい限り。もっと先導的役割を果たしてほしい。
- ・ウィリアムモリスが世界一美しい村と言ったイギリス コッツウオルズのパイブリ村の長屋に京の町家が似ていると思いました。世界に伝えられるものだと思います。
- ・長屋や間口の狭い町家の細工が細やかな点、意匠を施していることが気持ち良い。
- ・自治体の基本的理念は京都以外の地方都市のあり方の参考になる。
- ・日本中を一つのルールで括っていることに違和感を感じる機会になりました。
- ・自治体がしっかりと継続していることが素晴らしい。
- ・空家流通促進事業継続は大変なエネルギーだと思います。その事業に携わる人がきちんと仕事としてやっていると(報酬含め)良いと思います。
- ・京町家ファンが京都のまちを残していくのに役立っていると思う。
- ・建仁寺近くの職人町はさすが京都だなと思った。畳屋が3件も目についた。桶屋も珍しい。
- ・下屋庇に一文字瓦を吹いている町屋が多かった。葺き手間がかかると思うが。
- ・全体的に木板使用が多いため老朽化がひどく、改修の費用が多くなりそう。住んでみたい人や改装したい人も多いと思うが、条件等も含めた広告を建築士などに流していただくと良いと思った。
- ・フィールドワークで気付いたことは動物を見かけなかったことです(猫をたった1匹だけ)。犬の声は全く聞こえませんでした。「住み続けたいまち」には動物も必要かも知れません。
- ・車が絶対条件の地域と違って「歩ける」のがいい。
- ・多雪地域からは考えられないような道幅・建物の間隔に驚いた。
- ・空き家状態の町家の今を見てみたかった。
- ・普通の観光では見れない暮らし・裏側・中身を見せていただきありがとうございました。

□ 暮らし・コミュニティーに関して

- ・徒歩圏内で日常生活の用事が足りるので、高齢者に優しいそして噂が生まれ助け合える街になるのだと思いました。
- ・人間スケールの町だと思いました。1800世帯であのショッピングセンターが成り立っていること賑わっていること。イオン依存の昨今からは考えられない程ですが町の明るい将来を感じます。
- ・町家を見ては面白いのですが「住みたい」とは思いませんでした(寂しさを感じます)。陽当たりが悪い。部屋が多いからかなあ。
- ・人が歩くだけの道幅の道。建物と建物の間を通る。ご近所の生活を感じられる距離感。→コミュニティーがしっかりしているからこそ、可能なことだと思いました。
- ・陶器の街 五条坂と言う表面の美しい街並みの路地裏通り。本当の京都の姿を見た感じ。とっても良い体験をさせていただいた。
- ・近所の方々とのコミュニケーションがとりやすいのかなあ？と思いますが、余りそこに住んでいる方々と会えなかった。生の声が聞きたかった。

□ 防災

- ・安心安全マップはどう活かされていますか？地域の皆さんが知っていますか？
- ・建物をいかに丈夫に造っても地盤に問題があれば、地震後の補強には何百万単位で費用がかかります。断層の上に建っていると聞きましたので、やはり考慮すべきことはあるはず。

□ その他感想

- ・初めて路地裏通りを見た時、自分は住めないと思った。空気が慣れるにつれ何とも言われぬ心地よさとグイグイ魅かれるものを感じた。さすが京都なのかな。
- ・小さなお地蔵様、屋根の上の鍾馭(しょうぎ)様などのマップを作り、探検隊をやってみよう。
- ・上手に活用されているお手本を見せていただきました。
- ・保存する努力が大変であると思った。
- ・歩く機会があり運動にもなり楽しかった(自転車の利用が多そうだった。)